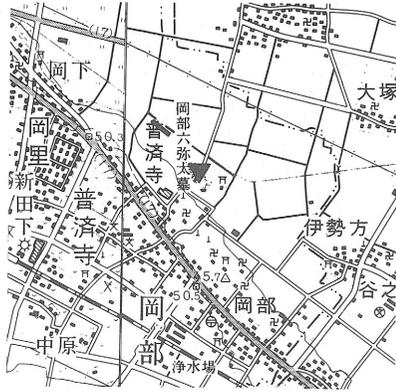


埼玉・**岡部条里遺跡**
おかべじょうり



(高崎・深谷)

岡部条里遺跡は、岡部町の北部に位置し、北側を流れる利根川の乱流によって形成された自然堤防上を中心として広がっている。西側一・二kmには古代榛沢郡衙正倉と推定される中宿遺跡がある。

遺跡の発掘調査は福川の河川改修に伴って実施され、古墳時代後期と奈良・平安時代の複合遺跡であることが明らかになった。

古代については条里制水

- 1 所在地 埼玉県大里郡岡部町普濟寺
- 2 調査期間 一九九六年(平8)一月～三月
- 3 発掘機関 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 4 調査担当者 中村倉司・黒坂禎二・福田 聖・橋本充史
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 奈良時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

田の存在が早くから知られていたが、調査によって平安時代末期の天仁元年(一一〇八)の浅間山の噴火に伴う火山灰に覆われた水田跡を検出した。また、B区からは水田跡とほぼ同時期か、それ以前と考えられる館と推定される遺構を検出した。

木簡が出土したC区からは八世紀中葉から後葉の竪穴住居跡六棟と溝二条を検出した。木簡は調査区を東西に横断する幅一m、深さ一mの三号溝から出土した。

三号溝の覆土は焼土・灰と八世紀中葉の土器片が混在する上層と、流水以外に遺物を含まない下層に分かれ、木簡は下層の溝壁面に貼り付いた状態で出土した。出土状況から木簡の年代は八世紀中葉以前で、調査区外から流れてきた可能性が高い。

上層の土師器・須恵器にも「下」「口」「井」の墨書が認められるものがある。

8 木簡の积文・内容

(1)

大 □ □

(33)×(11)×3 081

上下端、両側端を欠失する。左側と裏面に一部工具により切削された痕跡が残る。「大」の一字と右側の一行が肉眼で確認できる。

(福田 聖)

